



就農ステッ プ

インタビュー ー 長崎市版



■長崎市ってこんなところ

西側、南側、東側は海に面していて、長崎港内の平坦な中心部には、商業・業務機能が集積し、すり鉢状の地形に形成された斜面市街地とあいまって、独特の都市景観が形成されています。一方、周辺地区は、海、山などの豊かな自然に囲まれて地域や都市近郊の傾斜地で農業が営まれています。温暖多雨で、海洋性の気候に恵まれています。

■どんな品目があるの？

果樹類では、「びわ」が生産量日本一を誇り、「長崎びわ」として全国的にも知られているほか、柑橘類の栽培も盛んです。

施設園芸では、「いちご」が特に新規就農者の多い品目で、「ミニトマト」、「アスパラガス」、「輪ギク」及び「トルコギキョウ」等が生産されています。

畜産関係では、肉用牛の肥育が多く、「長崎和牛・出島ばらいろ」として地域ブランドに位置付けられています。

■農業の活動組織はある？

びわ、いちご、アスパラガス、花き、肥育牛などでは、農協の生産団体（部会）が組織され、共同販売や研修会などを行っています。

そのほか、若手農業者で研修や作業受託を行う青年農業者組織や、農業経営の向上を図る認定農業者で組織された協議会、営農環境の維持管理を行う任意の営農団体等があります。

■農地の特徴は？

農地の多くは斜面地にあり、小さな面積で分散しています。そのため、斜面地での果樹や、狭い面積でも販売をあげることができるビニールハウスを利用した野菜や花き等の栽培のほか、複数の品目を組み合わせた複合経営による農業となっています。



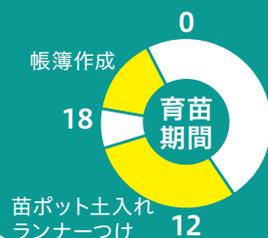
田川大将さん・ひとみさんご夫妻

いちご農家 就農2年目

二人三脚で忙しい農業生活を送る中、地域の人々との絆を大切に、日々努力を重ねています。



年間スケジュール



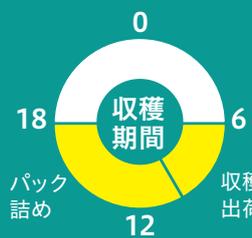
野口 匠さん

いちご農家 就農8年目

父が農家をしていた時の農協職員がイチゴを栽培していると聞き、その方に話を聞きに行きました。実際にお話を伺い、その方の元で研修を受けました。



年間スケジュール



詳しくは裏面をご覧ください

就農
2年目



田川大将さん
ひとみさんご夫妻

Interview

前職は自衛隊でしたが、自分で何か仕事をしたかったのがきっかけです。地元の友人に相談したところ、同級生が琴海でイチゴを作っていることを聞き、そのハウスを見学したことがきっかけでした。そこで支援制度があることを知り、「自分ででもできるかもしれない」と思い、農業を始めました。

▶地元の方々との関係性はありますか？

周辺の方々に「イチゴを作っています」と挨拶したところ、温かい言葉をかけていただきました。「頑張ってるね」と応援してもらい、地域とのつながりが大きな支えになっています。

▶就農してみて、イメージどおりでしたか？

忙しい時期には睡眠時間を削られることがあると聞いていましたが本当では（笑）。基本的に作物に合わせて動く必要がありますが、時期によっては以前より自由な時間も増えました。前職では朝から出勤するのが憂鬱でしたが、イチゴのハウスに行くのは全く嫌ではないですね。

▶特に気をつけているポイントはありますか？

イチゴはとてもデリケートで、一つのミスが収穫量に影響することがあるため、細部にまで注意を払っています。また、苗の育成時には先輩方に相談しながら水やりや温度管理を行い、失敗を避けるようにしています。

▶農業の支援策で役立つものはありますか？

支援がなければ就農自体が難しかったと思います。特にハウスリースの支援がなければ、今のような状態でイチゴを作ることはできなかったもので、とても助かっています。

▶農業の魅力は何ですか？

自分で何かを成し遂げる喜びを感じられることです。前職では責任が分担されていましたが、今はすべてが自分にかかっており、その分やりがいも大きいです。

▶農家を一緒にやることになった時、ひとみさんはどう感じましたか？

農家という職業に対して特に強いこだわりはありませんでしたが、一緒に仕事ができることが嬉しかったです。共に農業をしていることで、日々の忙しさを分かち合えています。

私が農業を離れた理由

①農業生産コストの増加と農産物価格の下落

農業の後継者として就農しました。畑が狭小であったため、小さいビニールハウスを複数建てて、それぞれに暖房機を入れて主に花きを生産していました。燃料費や資材費などの生産コストが上がる一方で、農作物の価格が思うようにあがらず、経営が厳しくなりました。

②有害鳥獣（イノシシなど）や気象災害の被害

イノシシなどによる食害や掘り返しが増加し、また、気象災害への対策のため、労力や経費がかかるようになり、営農を続ける意欲がなくなりました。

就農
8年目



野口 匠さん

Interview

大学時代に就職をしたくないと思っていた時、親が昔養鶏農家をしていての思い出を思い出しました。その当時使用していた場所が空いていたので、それを活用して何かできないかと考えた結果、農業を始めることに決めました。

▶就農するにあたって、どんな点が難しかったですか？

一番難しかったのは土地探しです。最初から今の場所でやると決めていたわけではなく、研修先が琴海だったので、琴海で土地を探していましたが、理想の場所が見つからず、最終的に現在の場所に決めました。

▶就農してみて、イメージどおりでしたか？

研修中に多くのことを教えてもらったので、ある程度イメージどおりでした。しかし、研修時間外の作業についてはあまり理解がなく、実際に自分でやるとなると異なる点も多く、最初の数年は苦労しました。

▶就農にかかる費用や経営のやりくりについて教えてください

就農にかかった費用は約4,000万円で、その半分は県や市の補助金を受け、残りの2,000万円は青年等就農資金を借り入れました。

▶役に立った支援策などはありますか？

ハウスの建設に対する補助金が非常に助かりました。イチゴは細かい経費がかかるので、他の作物よりも支援が多いと感じています。特に、ハウスを建てないと仕事ができないので、その部分での支援が大きな助けになりました。

▶農業の魅力は何ですか？

収穫量が思ったとおりに達成できた時や、病気の対処がうまくいった時に、とてもやりがいを感じます。

▶今後、どのような目標を持っていますか？

効率的な経営を目指しています。収量を追求するのではなく、経費と売上のバランスを取り、経費を抑えながら一定の売上を上げることを目指しています。そのために、省力化や機械の導入を進め、より効率的に作業ができる方法を考えています。昨年は市の補助を受けて、いちごパックのフィルム貼り機械を導入しました。

就農した人全てが上手くいっているわけではありません。

ここでは様々な理由で、やむを得ず他の部門で活躍されている方の声をご紹介します。

③後継者の不在

子供が県外に就職したため、農業を継がないことになり、将来重荷になる借入れなどは残したくないと考え、安定したサラリーのある別の仕事に就くことにしました。

④最後に一言

職業として農業を選ぶこと、農業から離れ別の部門に就くことは、家庭を含め様々な事情があるかと思いますが、自身の経営ですので、やりがいもありましたし苦労もありましたが、農業を継いだことは後悔していませんし、他の部門についてもからも地域での活動は続けています。いろいろな方の話を聞き、頑張っていたいただければと思います。